

2-5

演題	みんな 顔が見たい
副題	

面会
ICT 活用

法人名	社会福祉法人 湘南愛心会
施設名	特別養護老人ホーム 逗子杜の郷

発表者名 (職種)	野間 智子 介護職員
共同発表者	松林 正浩
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	逗子市沼間 1-23-1
TEL	046-870-6800
FAX	046-870-6805
メールアドレス	morinosato-kaigo@tokushukai.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	2014年5月に逗子市に特養として開設致しました。JR横須賀線東逗子駅より徒歩7分の緑の杜に囲まれた立地に位置し「地域に必要とされ愛される施設づくり」を目指して、ご入居者様に寄りそう介護を提供する施設運営をしています。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

職員、ご入居者様と「コロナとどう共存していくのか?!」制限ばかりのマイナス面だけではなく「今できることをやろう!そしてみんな笑顔で過ごそう」をキャッチコピーにしてコロナ禍をつらくもありませんでも楽しみを持って乗り越えた結果を報告する。

取り組んだ課題

新型コロナウイルス対策といった中で突然、生活の変化が必要になってしまった。それに伴い面会・外出できないなどの制限により、楽しみが大幅に減少してしまっただけでなく「コロナ前みたいにも楽しみたい」といった思いが強くなった。多職種協議を繰り返し「今できることをやろう!そしてみんな笑顔で過ごそう!」をキャッチコピーとした。そんな思いの中から「家族に逢いたい!」「食事や行事など一緒に楽しみたい!」といった2つのコンセプトでアプローチを開始した。ここでは「家族に逢いたい!」を目的とした内容の結果を報告する。

具体的な取り組み

- ① 面会の検討
どうにかお互いに顔が見える環境を作りたい…
 - ・方法:対面 窓越し オンライン
 - ・ルール:日時 時間枠 予約制
- ② 面会以外の施設からの発信
 - ・状況報告の手紙、新聞
 - ・行事写真の共有
 - ・ブログ
- ③ 家族からの要望
 - ・差入れ
 - ・家族からの動画や写真

活動の成果と評価

利用者・家族からの評価
・コロナ禍で、どうにか逢える、顔が見える方法については、概ね良好であった!
例)施設として気にしすぎであったのでは…
もっと家族の立場になってほしかった…

職員の变化

- ・家族面会立ち合いなどを通じて、日々の生活への視点

副産物

- ・オンラインでの活用していたタブレットが介護記録の電子化に転用
- ・ブログが求人活動の1つになった

今後の課題

- ・この顔が見える環境を持続できるよう感染対策や職員の意識が高く保てるような取り組みの立案・実施していきたい
- ・看取りの方への「24時間365日いつでも面会」を目指す